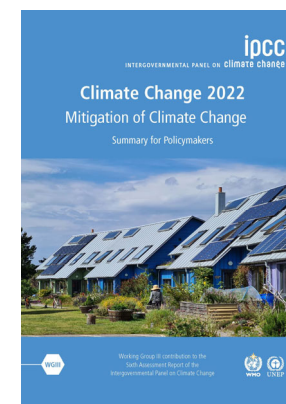
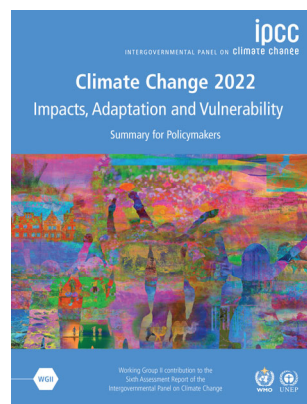
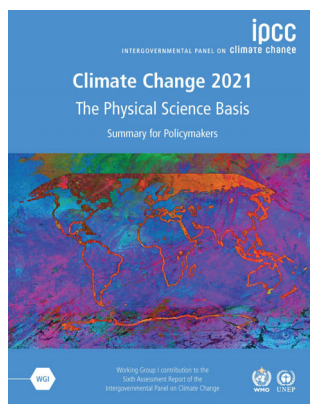


# IPCC第6次評価報告書の特徴

## 3つの作業部会の調和

- ❄️ WGIは緩和経路に踏み込み、
- ❄️ WGIIが緩和の重要性を唱え、
- ❄️ WGIIIがSDGsに言及。

- 💧 気候変動は人類の幸福 (well-beings)と地球の健康に対する脅威
- 💧 残された機会は少ない。



沖 大幹

東京大学 大学院工学系研究科 教授

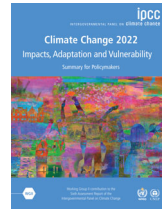
IPCC シンポジウム「IPCC 第7 次評価報告書へ向けて～未来のために今私たちが行動しよう～」、東京国際フォーラム、2023年10月23日(月)

# 適応の限界

## 💧 ハードな適応限界

❄️ 物理的、原理的に無理

❄️ 暖水サンゴ、沿岸湿地、熱帯雨林、極や山岳など多くの**自然システムはハード限界に近い**



## 💧 ソフトな適応限界

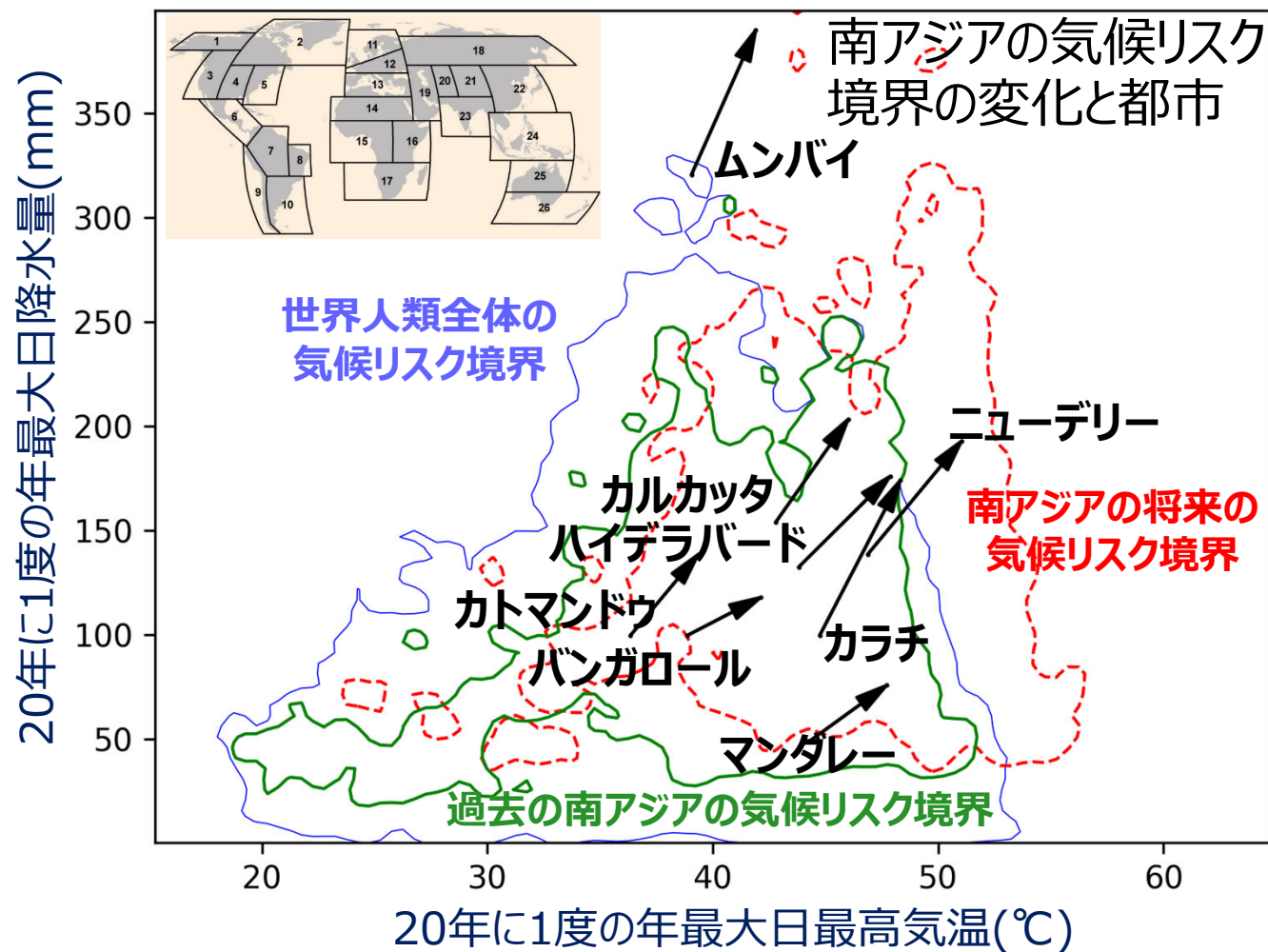
❄️ 選択肢は存在するかもしれないが、制度、財政・資金、知識不足や社会文化的な制約などにより現時点では不可能。

💧 財政、ガバナンス、制度及び政策の制約への対処でソフトな適応限界は克服し得る。

❄️ 世界の**沿岸**はソフト限界に  
❄️ 不平等や貧困も要因

💧 ハード限界・ソフト限界に達する前の効果的な適応策でも、**すべての損失と損害を回避できるわけではない。**

# 地域的な気候リスク境界の変化(南アジア)

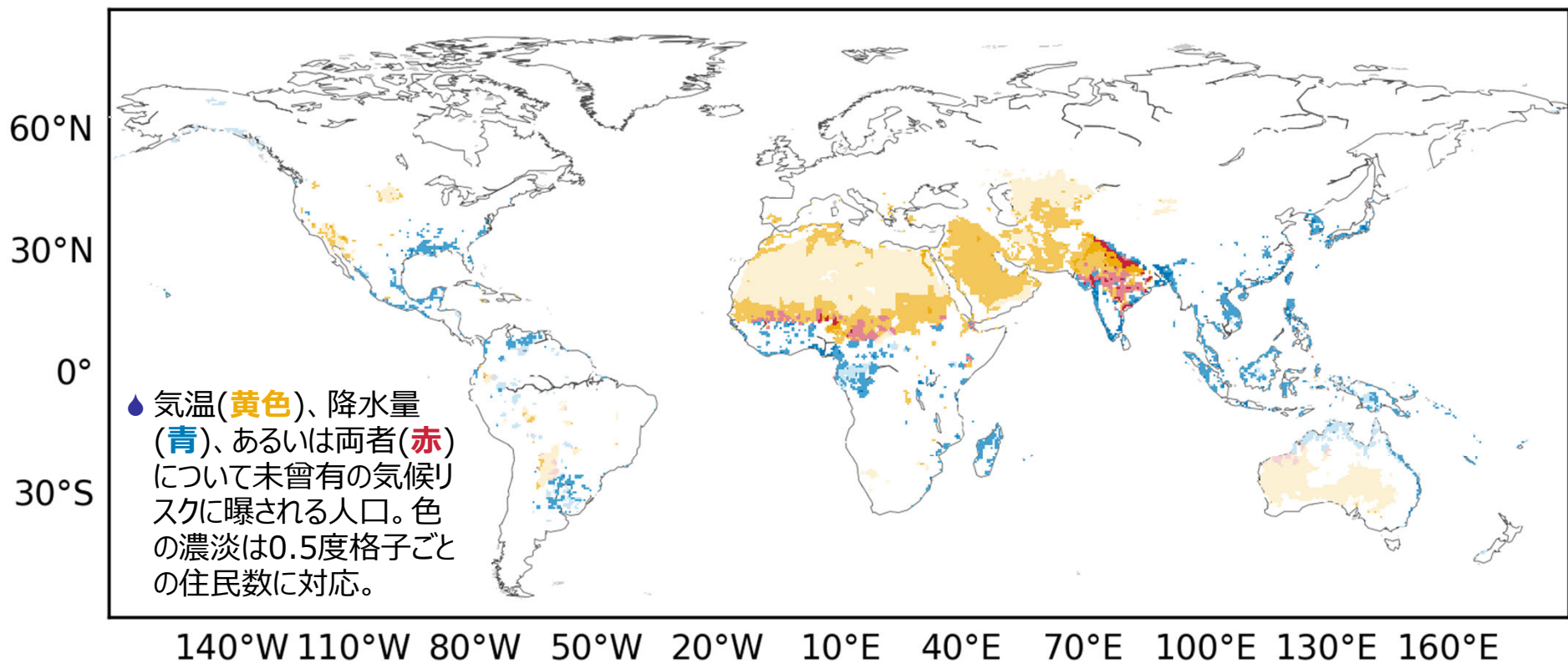


←南アジアにおける20年間の日最高気温と降水量の気候リスク境界の変化。

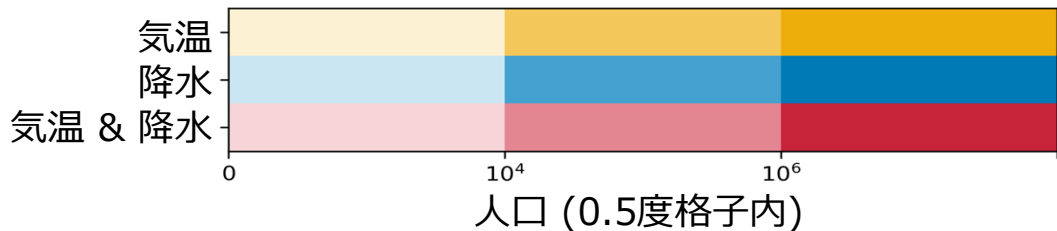
- 南アジアのムンバイやニューデリーなど一部の地域では、今世紀末に気候リスク境界を越え、その地域の人々は未曾有の気候リスクに曝される。
- この未曾有の気候リスクに、私たちはどのように適応していけばよいのだろうか。

# 気候リスク境界を越える人口の分布

**SSP5-RCP8.5**



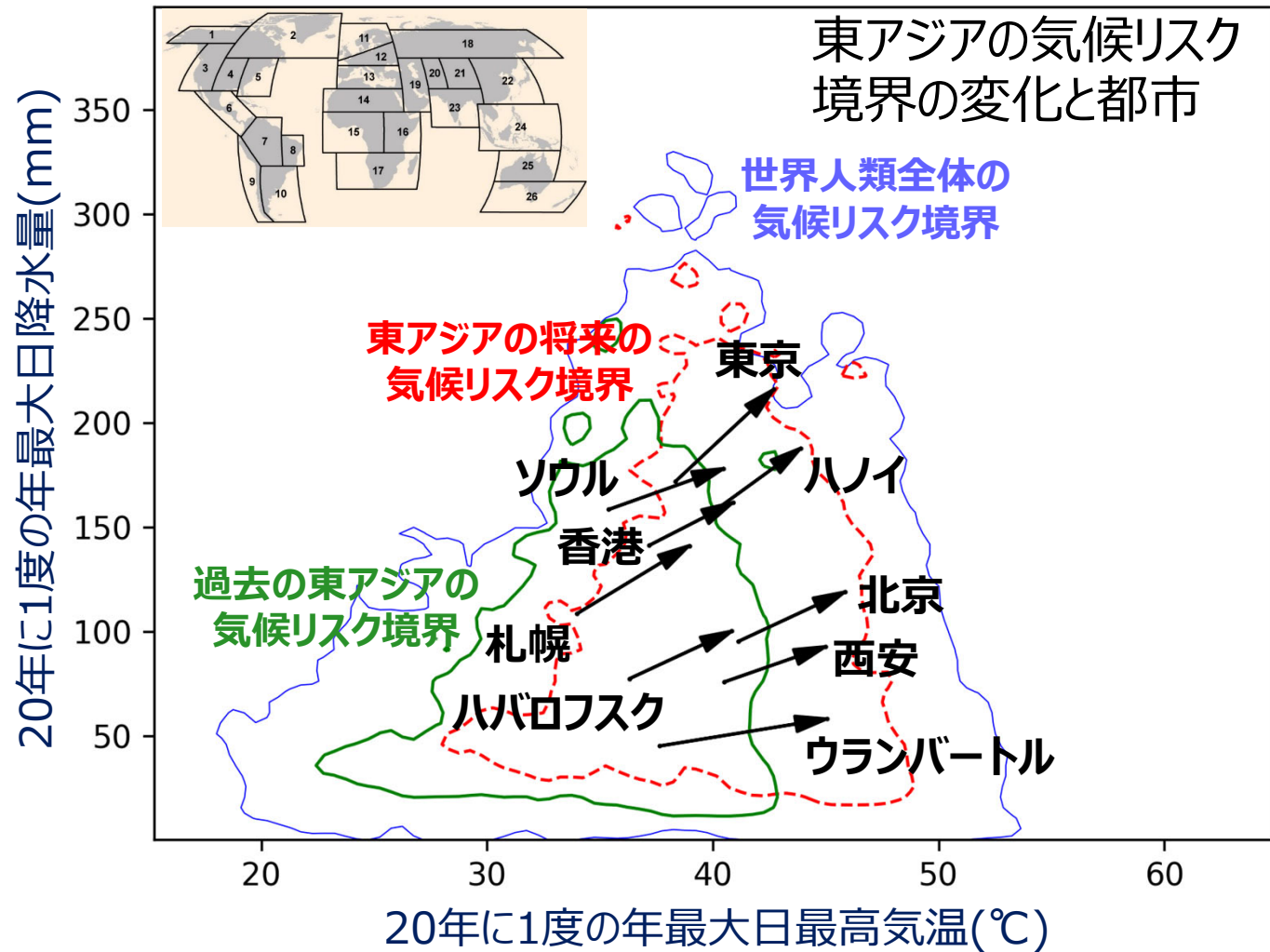
● 気温(黄色)、降水量(青)、あるいは両者(赤)について未曾有の気候リスクに曝される人口。色の濃淡は0.5度格子ごとの住民数に対応。



● 全人口の34.2%に相当する25億人が気候リスク境界を越え、未曾有の気候リスクに曝される(RCP8.5-SSP5の場合)。(RCP2.6-SSP1だと16.3%に相当する11億人)

# 地域的な気候リスク境界の変化

SSP5-RCP8.5



- ←20年に1度の日最高気温・日降水量の東アジアにおける気候リスク境界の変化予測図。
- RCP8.5-SSP5シナリオの下で、現在の気候条件(緑線の枠内;1980-2009年)から将来の気候条件(赤線の枠内; 2070-2099年)への矢印の方向で表される主要な大都市の極端な気候リスクの変化を示す。青線内は地球全体の気候リスク境界。
- 東アジアでは将来の極端な高温や豪雨でも、世界のどこかではすでに経験された値で、人類として適応策の経験あり。

## 論点

- 💧 気温と海水面は上昇し、降水量はより激しさを増す。
- 💧 今世紀の終わりまでに、南アジアとアフリカの一部は人類がこれまでに経験したことのない熱波や激しい雨のリスクに曝される。
- 💧 十分な投資に加えて、多国間主義に基づくグローバル連携による円滑な知恵の伝達や技術移転が、現実的で効果的な気候変動への適応策には極めて重要である。

